

40年にわたる教員生活で、私はざっと数え2万人の学生と接してきた。そして、彼らの分を含め結婚式の列席回数は250回ほどになる。その中の40回は媒酌人を務めた。秋の日柄の良い日には昼と夜の、野球用語でいうダブルヘッターをこなしたこともあった。

こういう貴重な経験から拙著『これでいいのか結婚式！アメリカ・日本のブライダル事情』が生まれ、ブライダル関係の仕事をする方々に知己を得た。また、「挙式は宗教的行事ではなく民事だ」という考えから「シビルウエディング」の普及にも力を入れてきた。

2ヶ月前に妻方の姪が結婚した。披露宴の最中に、私は「結婚式に出席するのはこれが最後だな」と思いながら、ふと、「これまで列席者、媒酌人、シビルウエディング・ミニスターとして出席した結婚式でもっとも印象深いのはどれだろう」と過去に思いを馳せた。

いくつかの場面が脳裏に浮かんできたが、最上級の「もっとも」となると、2003年10月19日、札幌市双子山の山腹にある「ジャルダン・ドウ・ボヌール」で行われた長谷山智人と横岡千可子の結婚式に勝るものはなかった。

このときの私は、シビルウ

エディング・ミニスターとして挙式を司ったのだが、「もっとも」と評価するのは、それとは関係ない……智人と千可子による手作りの結婚式だったからだ。それも半端なものではなく、プランナー顔負けの、This is wedding!であった。

よくやった! あっぱれな花嫁

北海道出身の千可子は、大学時代に私が担当する「英語スピーチ」のクラスを受講した。このクラスの運営がうまくいくかどうかは、クラスの中にリーダー格の学生がいるかどうかである。この年は千可子とその役目を果たした。彼女の見事なスピーチに学友たちは刺激され、回を重ねるごとに充実したクラスになった。

智人と千可子は、高校時代からの友人で、同じ年に学校は別だが東京の大学に入った。卒業後、智人はJR北海道、千可子は開設されたばかりのオランダ航空札幌支店に就職した。

ふたりがどのような経緯で結婚の約束するにいたったかは知らないが、2002

年の初春に、転勤で東京勤務になった千可子が拙宅に「日取りや会場を決める前に1年かけてプランナーの勉強をしたい」と相談してきた。

玄関に入った彼女は、正面にかけてあるポスター大の額を凝視した。額の中には、日本のカリグラフィー界で五指に入る堀井裕子書いたW.ブレイクの詩がある。

「招待状やウエルカム・ボードなどすべて自分で書きたいので、この方を紹介してください」
彼女の結婚式の準備はこの瞬間から始まった。その熱意にホダされた私は、ブライダル産業界で活躍している人を紹介したり、セミナーの片隅で聴講させてやってとお願いしたりした。

一年半後の結婚式の前日、私は妻と札幌へ飛び、夕方、挙式の段取りを確認するために会場へ行った。建物は新しく、挙式や披露宴会場になる部屋は天井が高く、どの位置からも床から天井まであるガラス窓を通して深い森が見える。

ふたりは、その日の夕方から翌日の夜まで全館を借り切っていた。挙式の打ち合わせを終えると札幌市内で立会人を務めてくれる友人たちを交え「リハーサル・ディナー」をした。が、ふたりは食事の途中で明日の準備があるので、会場へ引き返した。

翌日、建物に入った私は、驚いた。受付の前にあるウエルカム・ボードはもちろん、そこかしこに客を迎える花嫁の気配りが見られる。洗面所

へ入った妻は、化粧直し用のグッズ入りのバスケットが置かれそこに「本日はありがとうございます。どうぞご自由におつかいください。千可子」と書かれたカードに感激した。私は会場に向かう廊下の壁に飾られたふたりの生誕から今日までの写真とテーブルに並べられた人形やミニカーやグローブなどふたりの歴史を語る思い出の品に感心した……これらの準備は前夜になされたのだ。

挙式、披露宴、ダンスパーティー、そして二次会と、この日の結婚式は同じ建物内で夜まで続いた。

披露宴の最後にふたりは、それぞれがギターケース大の鍵形の工作物を抱えて入場、「私たちの新居のカギが入っています。わが家と思っておつかいください」と言いながら相手方の親に渡した。

私たち夫婦はダンスパーティーまで参加して会場を後にした。

常々、「世の中で日本の結婚式ほどタイクツなものはない」と披露宴の最中に何度も時計を見てきた私だが、この日はやはり時の経つのを忘れ心から智人と千可子の前途を祝い、同時に完璧ともいえるふたりの、列席者をもてなく心遣いに感服した。

(文中敬称略)

シビルウエディング・ミニスター 黒川鍾信氏

(くろかわ・あつお。1938年東京生まれ。シビルウエディング・ミニスター養成講座の講師を務める。姉妹紙「国際ホテル旅館」に「ホテル・旅館に願うこと〜世界を旅して半世紀〜」を連載中)



▲札幌市双子山の山腹にある「ジャルダン・ドウ・ボヌール」で行われた挙式